

「平成29年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）の結果について次のとおり報告します。

## 1 国公立学校

（ ）は千人当たりの件数・人数

	校種	件数・人数	千人率	前年比	全国順位	
					H29	H28
暴力行為件数	小	1,004 件	( 9.2 )	92 件増	6 番目	4 番目
	中	661 件	( 11.4 )	74 件増	13 番目	15 番目
	高	115 件	( 2.0 )	▲30 件減	19 番目	7 番目
いじめ認知件数	小	3,086 件	( 28.3 )	990 件増	29 番目	32 番目
	中	1,445 件	( 24.9 )	477 件増	※	
	高	501 件	( 8.6 )	157 件増		
	特	51 件	( 19.8 )	17 件増	(22.3)	(14.9)
不登校児童生徒数	小	615 人	( 5.6 )	2 人増	17 番目	8 番目
	中	1,958 人	( 33.7 )	146 人増	11 番目	11 番目
	高	716 人	( 12.8 )	77 人増	33 番目	35 番目

※文科省は、校種別の千人当たりの件数は公表せず。岐阜県全体の認知件数は、5,083 件

### ■暴力行為件数

- ・国公立の小・中・高における暴力行為発生件数は1,780 件（前年度1,644 件）
- ・児童生徒1,000 人当たりの発生件数は、7.9 件（全国値4.8 件）  
前年度の7.2 件（全国値4.4 件）より増加

【分析】公立小・中学校：生徒間暴力の増加

（小学校発生件数：634 件→787 件 +153 件、中学校発生件数：343 件→393 件 +50 件）

### ■いじめ認知件数

- ・国公立の小・中・高・特におけるいじめの認知件数は5,083 件（前年度3,442 件）
- ・児童生徒1,000 人当たりの認知件数は、22.3 件（全国値30.9 件）  
前年度の14.9 件（全国値23.8 件）より増加

【分析】公立小学校：学級担任の発見や本人の保護者からの訴えが増加。

（学級担任の発見や保護者からの訴え 951 件→1,199 件 +248 件）

### ■不登校児童生徒数

#### ○小・中学校

- ・国公立の小・中における不登校児童生徒数は2,573 人（前年度2,425 人）
- ・児童生徒数1,000 人当たりの不登校児童生徒数は、15.4 人（全国値14.7 人）  
前年度の14.3 人（全国値13.5 人）より増加

【分析】公立中学校：無気力や不安の傾向がある生徒数の増加

（不登校理由「無気力」や「不安」傾向の生徒1,307 人→1,458 人 +151 人）

公立中学校：新規及び継続不登校生徒数の増加

（新規不登校数 711 人→795 人 +84 人、継続不登校数 1,058 人→1,109 人 +51 人）

#### ○高等学校

- ・国公立の高等学校の不登校数は716 人（前年度639 人）
- ・生徒数1,000 人当たりの不登校生徒数は、12.8 人（全国値15.1 人）  
前年度の11.3 人（全国値14.6 人）より増加

【分析】公立高等学校：無気力や不安の傾向がある生徒数の増加

（不登校の要因「無気力」や「不安」傾向の生徒 338 人→381 人 +43 人）

## 2 公立学校

調査の対象（平成29年5月1日現在）

- ・公立小学校 370校（義務教育学校前期課程2校含む）児童 107,661人
- ・公立中学校 180校（義務教育学校後期課程2校含む）生徒 56,079人
- ・公立高等学校 66校 生徒 44,636人（うち通信制444人）
- ・公立特別支援学校 22校 生徒 2,578人

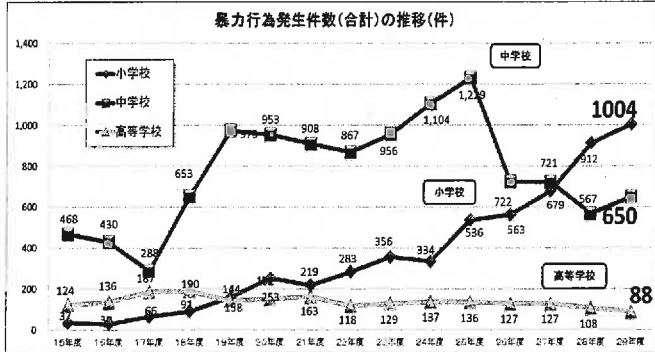
### (1) 暴力行為（公立小・中・高等学校）

#### ①-1 発生件数

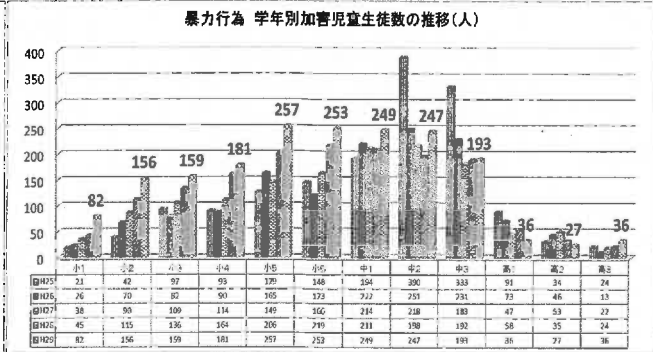
区分	岐阜県			
	H29	H28	増減	前年度比
小学校	1,004件（9.3）	912件（8.4）	92件増	10.1%
中学校	650件（11.6）	567件（9.9）	83件増	14.6%
高等学校	88件（2.0）	108件（2.4）	20件減	▲18.5%
合計	1,742件（8.4）	1,587件（7.5）	155件増	9.8%

※表の（ ）内の数値は、1,000人当たりの発生数

#### ①-2 発生件数の推移



#### ①-3 加害児童生徒数の推移



#### ①-4 備考

##### ■暴力行為の定義

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいい、被暴力行為の対象によって、「対教師暴力」（教師に限らず、用務員等の学校職員も含む。）、「生徒間暴力」（何らかの人間関係がある児童生徒同士に限る。）、「対人暴力」（対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く。）、学校の施設・設備等の「器物損壊」の四形態に分ける。ただし、家族・同居人に対する暴力行為は、調査対象外とする。

◇小学校及び中学校では増加。・高等学校では減少。

##### ■暴力行為別発生件数

対教師暴力	小学校	86件	前年度（120件）より	▲34件減
	中学校	68件	前年度（75件）より	▲7件減
	高等学校	3件	前年度（6件）より	▲3件減
生徒間暴力（児童間）	小学校	787件	前年度（634件）より	153件増
	中学校	393件	前年度（343件）より	50件増
	高等学校	60件	前年度（70件）より	▲10件減
器物損壊	小学校	152件	前年度（139件）より	13件増
	中学校	202件	前年度（133件）より	69件増
	高等学校	23件	前年度（32件）より	▲9件減

##### ■校種別の加害児童生徒数（実人数）

小学校	1,007人	前年度（802人）より	205人増
中学校	605人	前年度（531人）より	74人増
高等学校	93人	前年度（107人）より	▲14人減

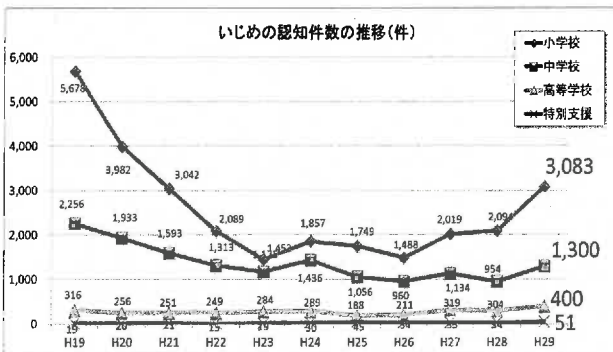
(2) いじめ (公立小・中・高・特別支援学校)

【②-1】認知件数

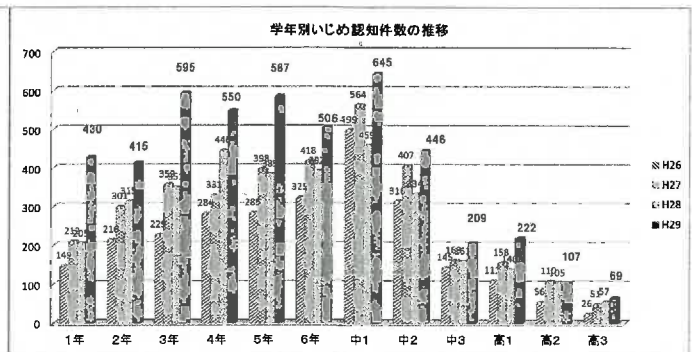
区分	岐阜県			
	H29	H28	増減	前年度比
小学校	3,083件(28.6)	2,094件(19.3)	989件増	47.2%
中学校	1,300件(23.2)	954件(16.6)	346件増	36.3%
高等学校	400件(9.0)	304件(6.7)	96件増	31.6%
特別支援学校	51件(19.8)	34件(13.3)	17件増	50.0%
合計	4,834件(23.0)	3,386件(15.8)	1,448件増	42.8%

※表の( )内の数値は、1,000人当たりの認知件数

【②-2】認知件数の推移



【②-3】学年別認知件数の推移



【②-4】備考

■いじめの定義

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」（いじめ防止対策推進法第2条第1項）をいう。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

◇いじめの認知件数は、小・中・高・特別支援学校で増加。いじめの正確な認知の取組を推進している成果。

- ・いじめの認知件数が多いことは教職員の目が行き届いていることのあかし「積極的に認知し、早期対応を行っている」
- ・組織で認知し対応することが重要「ひとりで抱え込まない」

■いじめ解消率

「解消しているもの（日常的に観察継続中）」の割合

小学校	73.5%	前年度(89.0%)より減
中学校	77.2%	前年度(88.6%)より減
高等学校	77.3%	前年度(72.4%)より増
特別支援学校	82.4%	前年度(50.0%)より増

■いじめの態様 ※上位2項目

小学校	①冷やかしかからかい等(63.1%)、②軽くぶつかられたり等(23.6%)
中学校	①冷やかしかからかい等(70.0%)、②軽くぶつかられたり等(15.2%)
高等学校	①冷やかしかからかい等(67.8%)、②携帯電話等でひぼう中傷(21.8%)
特別支援学校	①冷やかしかからかい等(58.8%)、②携帯電話等でひぼう中傷(19.6%)

■学校での日常の取組

- ・スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を積極的に活用して教育相談体制の充実を図った学校数  
小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の全ての校種で100%実施(前年比増減なし)

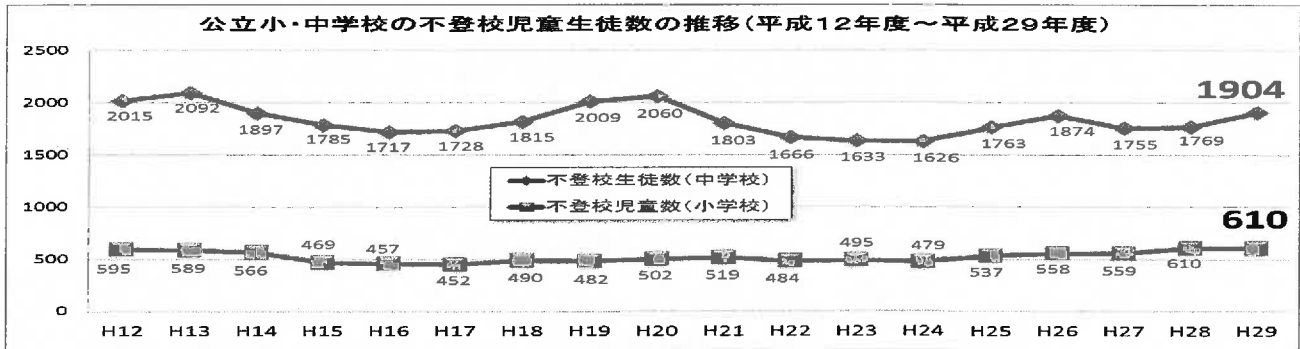
**(3) 小・中学校の不登校 (公立小・中学校)**

**【③-1】不登校児童生徒数**

区 分	岐阜県			
	H 2 9	H 2 8	増減	前年度比
小学校	610人(5.7)	610人(5.6)	増減なし	0.0%
中学校	1,904人(34.0)	1,769人(30.8)	135人増	7.6%
合 計	2,514人(15.4)	2,379人(14.3)	135人増	5.7%

※表の( )内の数値は、1,000人当たりの不登校児童生徒数

**【③-2】不登校児童生徒の推移**



**【③-3】備考**

■不登校とは

1年間に連続または断続して30日以上欠席した児童生徒の中で、何らかの心理的・情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的理由」によるものを除く。)

◇1,000人あたりの不登校数 小学校は5.7人で微増、中学校は34.0人で増加した。

■不登校の要因(分類)

小学校 ①不安(39.3%) ②無気力(38.9%) ③その他(14.3%)  
 中学校 ①無気力(41.8%) ②不安(34.8%) ③その他(11.4%)

■不登校児童生徒のうち、指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒数

小学校 162人(26.6%) 前年度は 206人(33.8%) ▲44人減  
 中学校 544人(28.6%) 前年度は 526人(29.7%) 18人増

■学校外の専門家や機関において相談・指導等を受けた児童生徒数

小学校 214人(35.1%) 前年度は 230人(37.7%) ▲16人減  
 中学校 474人(24.9%) 前年度は 438人(24.8%) 36人増

■不登校になった児童生徒の相談の状況

学校内の養護教諭やSC等による専門的な相談を受けた児童生徒数

小学校 313人(51.3%) 前年度は 319人(52.3%) ▲6人減  
 中学校 958人(50.3%) 前年度は 959人(54.2%) ▲1人減

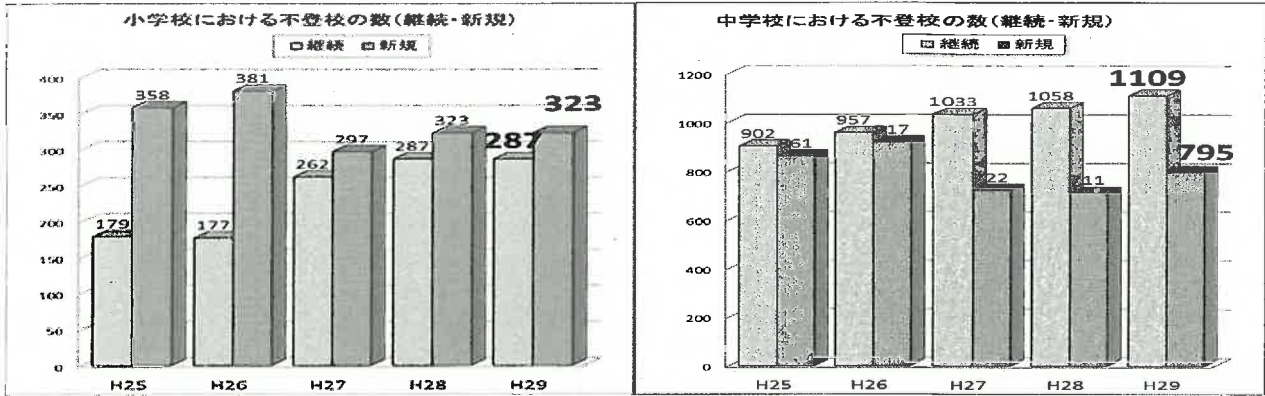
■不登校の状態が前年度(平成28年度)から継続している児童生徒数

小学校 287人(47.0%) 前年度は 287人(47.0%) 増減なし  
 中学校 1,109人(58.2%) 前年度は 1,058人(59.8%) 51人増

■新たに不登校となった児童生徒数

小学校 323人(53.0%) 前年度は 323人(53.0%) ▲23人減  
 中学校 795人(41.8%) 前年度は 711人(40.2%) 84人増

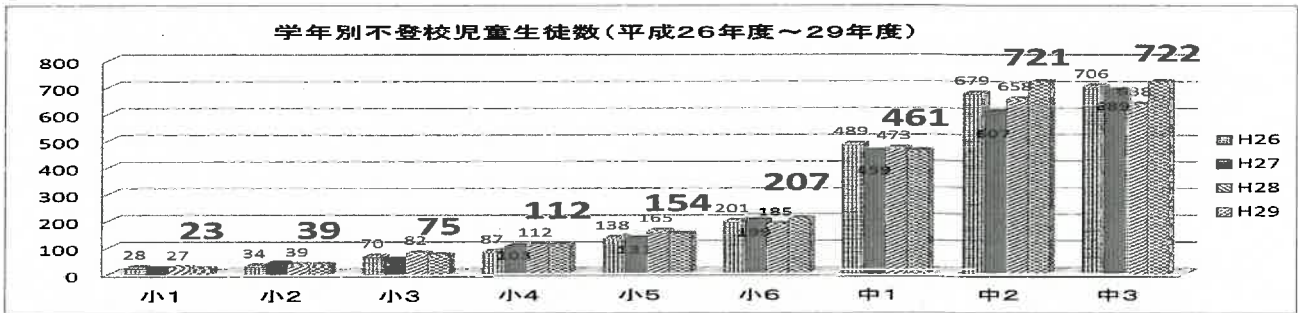
### [③-3] 新規・継続の比率



※不登校の状態が前年度から継続している児童生徒（継続）

※新たに不登校となった児童生徒（新規）

### [③-4] 学年別不登校児童生徒数の推移



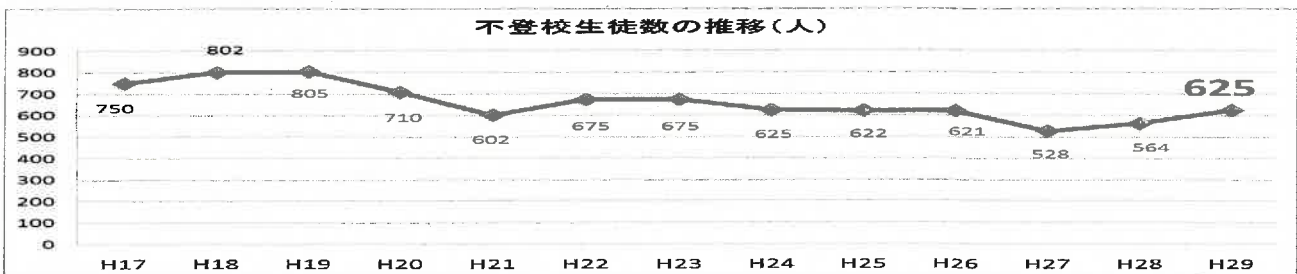
## (4) 高等学校の不登校(公立全日制・定時制の高等学校)

### [④-1] 不登校児童生徒数

区分	岐阜県			
	H29	H28	増減	前年度比
全日制	445人(10.4)	379人(8.8)	66人増	17.4%
定時制	180人(113.9)	185人(114.5)	▲5人減	▲2.7%
合計	625人(14.1)	564人(12.6)	61人増	10.8%

※表の( )内の数値は、1,000人当たりの不登校生徒数

### [④-2] 不登校生徒の推移



### [④-3] 備考

- ・公立全日制の高等学校における不登校による長期欠席者数は、前年度より66人増加
- ・全日制における前年度(平成28年度)から継続している不登校児童生徒数は減少135人(35.6%)→104人(23.4%)
- ・全日制における不登校生徒の在籍学校数 60校、不登校生徒在籍ゼロの学校 3校

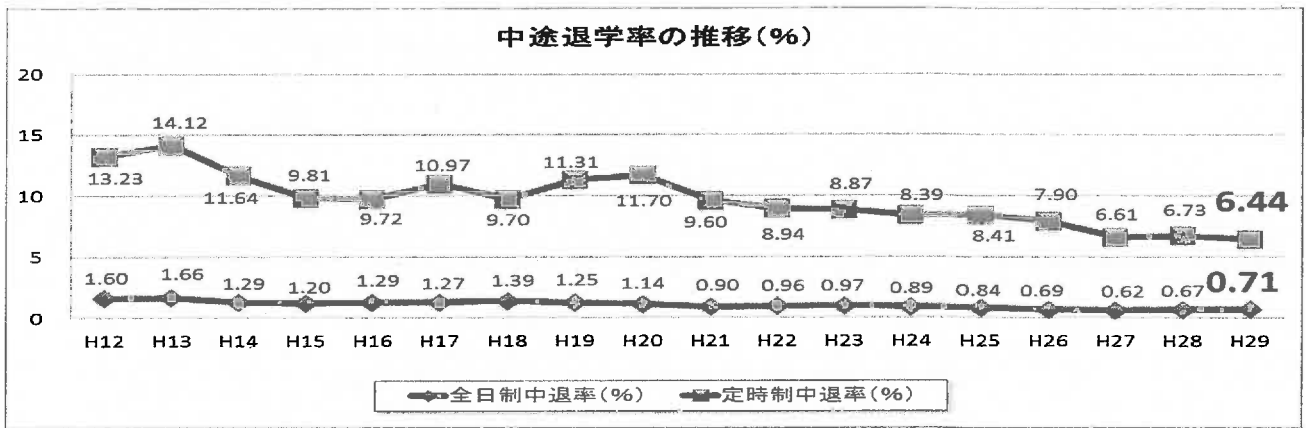
(5) 高等学校の中途退学等 (公立全日制・定時制の高等学校)

[5-1] 中途退学者数

区分	岐阜県			
	H29	H28	増減	前年度比
全日制	304人(7.1)	288人(6.7)	16人増	5.6%
定時制	102人(64.4)	109人(67.3)	▲7人減	▲6.4%
通信制	40人(90.1)	55人(115.5)	▲15人減	▲27.3%
合計	446人(10.0)	452人(10.0)	▲6人減	▲1.3%

※表の( )内の数値は、1,000人当たりの中退生徒数

[5-2] 中途退学率の推移



[5-3] 備考

- ・全日制及び定時制の高等学校における中途退学者数は、前年度より9人増加
- ・通信制における中退生徒数の減少(55人→40人)
- ・中退理由から、学校生活・学業不適應による中退生徒数の増加(164人→179人)

### 3 公立小・中・高等学校・特別支援学校における各項目の分析と対策

#### 〈分析〉

##### (1) 暴力行為：小・中学校での発生件数の増加について

- ・加害児童生徒数が増加している。

※小学校：加害児童数 802人→1,007人 +205人

※中学校：加害生徒数 531人→605人 +74人

- ・同一児童生徒が、暴力行為という形で何度も繰り返してしまう。

※小学校：加害児童数の数値差 81人（延べ人数1,088人－実人数1,007人 H28：83人）

※中学校：加害生徒数の数値差 84人（延べ人数 689人－実人数 605人 H28：70人）

##### (2) いじめ：いじめ認知件数の増加について

- ・小学校の段階から、教師が軽微とみられるいじめも見逃さず積極的に認知し、指導していることや、学校が保護者に対し、学校いじめ防止基本方針を周知する等、保護者のいじめ問題に対する理解が深まったことが認知件数の増加につながっている。

※小学校：学級担任の発見や保護者からの訴え 951件→1,199件 +248件

※中学校：学級担任の発見や保護者からの訴え 355件→471件 +116件

- ・高等学校、特別支援学校では、学校で行うアンケート調査を有効活用し、いじめの早期発見につなげている。

※「アンケート調査により発見」 高等学校 122件→158件 +36件

特別支援学校 21件→35件 +14件

##### (3) 不登校：中学校・高等学校での不登校生徒数の増加について

- ・中学校、高等学校ともに、「無気力」あるいは「不安」の傾向がある生徒が増加したことが、不登校生徒の増加要因の一つとなっている。

※中学校：「無気力」「不安」傾向の生徒数 1,307人→1,458人 +151人

※高等学校：「無気力」「不安」傾向の生徒数 338人→381人 +43人

#### 〈対策〉

##### ○暴力行為

- ・暴力行為等防止支援員を学校へ派遣し、児童生徒に付き添うなどのケアにより、心の安定を図る。

##### ○いじめ

- ・未然防止のため、小学校低学年からスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用し、心理状況や親子関係、生活環境等問題行動の背景の改善を図る。

##### ○不登校

- ・「いじめ・不登校等未然防止アドバイザー派遣事業」において、「魅力ある学校づくり調査研究事業（H22～H29）」の成果普及を図る。

<参考>

平成29年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査  
岐阜県（国公立）の特徴（全国数値との比較）

■暴力行為発生件数

	全国の 件数増減率	岐阜県の 件数増減率	千人当たり件数 全国順位	分析
小学校	+24.0% 増加	+10.1% 増加	H28 H29 4位→6位	・国と同傾向
中学校	- 4.8% 減少	+12.6% 増加	H28 H29 15位→13位	・国は減少、県は増加
高等学校	- 2.3% 減少	-20.7% 減少	H28 H29 7位→19位	・国より高い減少率
合計	+ 6.5% 増加	+ 8.3% 増加	H28 H29 7位→6位	・国と同傾向

■いじめ認知件数

	全国の 件数増減率	岐阜県の 件数増減率	千人当たり件数 全国順位	分析
小学校	+33.7% 増加	+47.2% 増加	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校種で、国より高い増加率</li> <li>・積極的ないじめの認知により早期発見、早期対応につなげている。</li> </ul>
中学校	+12.8% 増加	+49.3% 増加		
高等学校	+14.9% 増加	+45.6% 増加		
特別支援学校	+20.0% 増加	+50.0% 増加		
合計	+28.2% 増加	+47.7% 増加	H28 H29 32位→29位	

■不登校児童生徒数

	全国の 人数増減率	岐阜県の 人数増減率	千人当たり人数 全国順位	分析
小学校	+15.1% 増加	+ 0.3% 微増	H28 H29 8位→17位	・県は微増
中学校	+ 5.6% 増加	+ 8.1% 増加	H28 H29 11位→11位	・国と同傾向
小中合計	+ 7.7% 増加	+ 6.1% 増加	H28 H29 10位→10位	・国と同傾向
高等学校	+ 2.2% 増加	+12.1% 増加	H28 H29 35位→33位	・国より高い増加率
合計	+ 6.3% 増加	+ 7.3% 増加	/	・国と同傾向